E-1　名取市閖上地区　　2011 年 12 月 19 日（月）

報告者名　赤嶺　淳　　被調査者生年　生年未確認
調査者名　赤嶺　淳　　被調査者属性　名取市教育委員会文化振興課長
補助調査者　沼田　愛・相澤　卓郎

名取市教育委員会へのあいさつ

閖上地区での調査をするにあたり、① 閖上地区の被害と復興状況、復興にあたっての課題についてのブリーフィングをうけるとともに、② 調査課題でもある「閖上大漁唄い込み」保存会について、これまでの活動内容と現在の動向について説明をうけた。

上記 ① については、昭和 33 年に名取市に合併した旧閖上町は、当時から街区（マチ）と陸区（オカ）と二分されており、中心は、より海浜部に近いマチであるとのことである。「マチのことは、オカの人に訊いてもわからない」といわれるぐらい、両者の交流は乏しいとのことである。同時に、今回の被害が甚大であったのはマチなのであり、マチの住民は移動しており、調査が難航することが予想される。もともとあった日曜市が、閖上復興市と称し、イオンモールを借りておこなわれている。これは桜井水産が中心となっておこなっている模様である。他方、閖上郷土史研究会の岡崎一郎氏が編集した『閖上風土記』（1977）なる私家版書物の存在を教示いただき、この書物を入手し、閖上についての知識を吸収することが課題である。

② については、漁業者ではなく、女性部の活動ということで、教育委員会でも詳細は把握できていないということであった。教育委員会から、現在の会長である A 氏の連絡先を教えてもらうとともに、教育委員会から携帯電話へ連絡してもらい、本調査への協力依頼をしてもらうことを約束して教育委員会をあとにした。A 氏はかつて教員をされていたそうで、現在も文化財保護審議会の委員をされているという。

また、名取市としても、人と道具があつまれば、「閖上港まつり」を再興したいと考えているという。道具がそろったら、人も集まってくるはずだ、とのことであった。

閖上地区（マチ）への訪問

A 氏に連絡がつくまで、閖上地区を可能なかぎり歩き、被災状況と復興状況を自分の眼でみることにした。報告者は、名古屋市在住ということもあり、被災しておらず、映像と文字情報でしか、震災を経験できていなかった。そのため、瓦礫がほとんど撤去された跡とはいえ、荒涼たる跡地を目にしたことは、あらためて津波被害の大きさを痛感する機会となった。

A 氏との連絡

同行者の沼田さんが、携帯で連絡をとってくれ、突然のお願いにもかかわらず、夕方にご自宅を訪問することができた。教育委員会で教えてもらった住所はアパートであり、娘さんらしき女

性と２人暮らしの様子であった（詳細は不明）。

　ただし、報告者が名古屋に帰る最終便の直前であったということもあり、自己紹介するとともに、本事業の趣旨と１月中旬の再訪を約束してＡ氏宅をあとにせざるをえなかった。Ａ氏によると、「大漁唄い込み保存会は、女性部の仕事ということもあり、主人を亡くされた方も少なくなく、会合をもとうにも、移動のための足がなかったりすることが問題である」とのことであった。